

# TELLURIDE & ASPEN

テルライド&アスペン



アメリカン・ロッキーを滑る

コロラドの大地を訪れて



良質の雪と見知らぬ大地を求めてアメリカを訪れた。ロッキー山脈の最果て、コロラドの最奥に鎮座するテルライド・スキーリゾートと古き良きアメリカの雰囲気は今もたえる。アスペン・エリア。コロラドの赤い大地がつなく、ふたつのスキーエリアをフェロートラベルがフルエスコート。スキー場内で滑れるバックカントリーを中心に、フェロー・プレステージの世界をたっぷりの雪とともに紹介しよう。

協力  
コロラド州観光局  
テルライド・スキーリゾート  
株式会社フェロートラベル



写真とレポート  
梅川智亜希(SJ)





# TELLURIDE

テルライド・スキーエリア

## ロッキーの奥座敷で、パウダー三昧



1/北米スキーの雰囲気いっぱいのグローノロッジ 2/ジャセプス・レストランの、ボリューム、味ともに満点のチリドック 3/テルライドと言えばブラックアイアンボウル。雪崩コントロールがされたエキスパートのためのコースだ 4/基本的にスキー場内であればどこでも滑ることができるテルライド。リフト脇でもハードな斜面が数多く点在する 5/新しくオープンした、アルペンビノのターキーサンドは絶品 6/コロラドの良質なパウダーを堪能。ゲレンデ内でも十分に満足できるのが大きな魅力だ

## ロッキー山脈の最果て、 テルライドへ

アメリカ内陸部に位置するコロラド州には、赤い土と黒い瓦礫が積層となり、荒涼とした。アメリカの原風景が広がる。この土地は、その昔、世界中の人々を魅了したゴールドラッシュとともにその開拓の歴史を刻んできた。そして、今回訪れたロッキー山脈の最果て、テルライド・スキーリゾートの歴史もゴールドラッシュとともにある。1887年に開拓されたテルライドの語源はふたつ。ひとつはここで多く産出していた希少鉱物の「テルル」から。そしてもうひとつは「[to hell]」。この言葉は、テルライドへ行くための道程が恐ろしく長く、まさに地獄へ行く思いをしなくてはいけない、といったところからきているのだという。

日本からはシアトル国際空港、デンバー国際空港を経由し、ニューメキシコ州にほど近いデュランゴ空港まで、搭乗時間だけで約16時間。さらにバスに乗り換え3時間ほど山道を走るとテルライドへと到着。飛行機の待ち時間を含めれば、ざっと24時間ほど。まさに「[to hell]」な思いをしながらたどり着いた場所が、アメリカの奥座敷、テルライドだ。

スキーイン、アウトができるホテルからスキー場へと滑り込む。程よくグルーミングされたバーンを軽快に飛ばしながら、リフトを横に横に乗り継ぎ、





7/ 滞在はマウンテン・ビレッジにある「ピークス・ホテル」。すべてがゆったりとした作りで、落ちついた雰囲気のホテル  
 8/ ホテル内にはプール、ジャクージ、ミストサウナ、サウナ、ジム、ラウンジなど充実した設備が整う  
 9/ スキー板の管理から準備まで、ホテルのスタッフがこなしてくれる



10/ 24時間動いているゴンドラでアクセスする、マウンテンレストラン「オールレッド」は、雰囲気も最高だ  
 11/ メニューも、ステーキからシーフードまで幅広い。スキー場にながら、ゆったりとした時間を楽しむことができる。ワインの種類も豊富



### 全米が注目するテルライド

金の採掘とともに開かれたテルライドの街並みは、氷河に削られた谷間、2667mの標高に位置する。その上部、標高2907mにスキー場のベースとなるマウンテン・ビレッジが1987年に新設されたことで、リゾートとして発展してきた。車で約15分ほどの場所にプライベートジェット機のみが離発着できる空港が整備され、現在、高級リゾート地としても名高い。

スキー場上部は、ヒマラヤ杉の森林限界を越え、標高4059mを誇るバルマイラピーク眼下の本格的な山岳エリアとなっている。高い標高、そして年間約300日は太陽が顔を覗かせる内陸性の気候。さらに、平均7mを超える豊富な積雪量が、テルライドの特徴となっている。

標高を稼いでいく。圧雪車が入れないほどの急斜面にはパウダーが残され、さらにヒマラヤ杉を縫うように滑るツリーランもかなり楽しい。

森林限界を越えたスキー場上部に位置するブラックアイアンボウルは、パトロールによって完璧にコントロールされたバックカントリーエリアだ。降雪があればダイナマイトによって人工的に雪崩を起こし、安全を確保する。ローカルも含め、テルライドを訪れるスキーヤーの多くは、このアイアンボウルが目当てのひとつ。最短で15分ほど登れば、最上級者レベルのスキーヤーを対象とする、ダブルブラックダイヤモンド標記の山岳コースを滑ることができるといえる。標高の高さから、息を荒げながら斜面に飛び込む。すでに先行するスキーヤーに荒らされた斜面でも、良質のパウダーと急斜面のおかげで、快適に滑ることができる。

雪が降った次の日には、ブラックアイアンボウルも良いが、スキー場のなかにある独立峰、バルトマウンテンもお勧めだ。ダブルブラックダイヤモンドのコースでありながらも、登り口がわかりにくいいためか、約40分のハイクアップでノートラックのパウダーを堪能することができる。

北米バックカントリーシーンを、スキー場のなかで再現することができる懐の深さが、テルライドの大きな魅力。「To hell」な思いで行くだけの価値は十二分にある。









## 伝統に裏打ちされた高級リゾート

アメリカでもっとも伝統あるアスペンは、古くから高級リゾートとして発展してきた。そのため、エリアまでのアクセスは良く、空港まで車で約10分ほどの距離。また、空港には多くのプライベートジェット機が屋根付の駐機場に係留されている。スノーマス・ビレッジ、そしてマウンテン下のアスペンの街には多くのレストランやショップが建ち並び、アフタースキーには事欠かないだろう。巡回バスも夜10時までの運行なので、ゆったりと買い物もできる。

特色ある4つのスキー場は、バックカントリーから完璧なグルーミングバーン、そしてパークとあらゆるジャンルのスキーを楽しむことができる。トップからボトムまでの標高差も2000mを超え、滑り応えも充分。



## 《HIGHLANDS》ハイランド

スキー場上部のバックカントリーエリア、ハイランドボウル。そして未開雪エリアのスティープレイチェス。さらにグルーミングされた広大な一枚バーンのゴールデンホーンウッドと、それぞれ特徴あるコースが程よくミックスされたスキー場。標高差も2451mを誇っている



## スキー場のなかで味わう キャットスキー

圧雪車の荷台に設置されたゲージに乗り込むと、キャットはハイランドピークへ続く尾根を進んでいく。ハイランドスキー場の最上部にあるハイランドボウルは、ダブルブラックダイヤモンド

限。しかもエリアが広大なので、ノートラックのパウダーを何本もリフトアクセスで滑ることができる。

限。しかもエリアが広大なので、ノートラックのパウダーを何本もリフトアクセスで滑ることができる。限。しかもエリアが広大なので、ノートラックのパウダーを何本もリフトアクセスで滑ることができる。

限。しかもエリアが広大なので、ノートラックのパウダーを何本もリフトアクセスで滑ることができる。限。しかもエリアが広大なので、ノートラックのパウダーを何本もリフトアクセスで滑ることができる。

限。しかもエリアが広大なので、ノートラックのパウダーを何本もリフトアクセスで滑ることができる。限。しかもエリアが広大なので、ノートラックのパウダーを何本もリフトアクセスで滑ることができる。

限。しかもエリアが広大なので、ノートラックのパウダーを何本もリフトアクセスで滑ることができる。限。しかもエリアが広大なので、ノートラックのパウダーを何本もリフトアクセスで滑ることができる。

